

No.13



安じとつるおのの下町「川の手」をめぐして

# 防災 まぢつらり瓦版

発行ノ寺言問を防災のまぢにする会

昭和63年1月1日



昔はたくさんあった「天水桶」。(模型製作/徳永暢男氏)

## 区役所の委員会がまとめた一寺言問地区の整備計画の案に「意見書」

一言会の提案を受けて、墨田区役所の「一寺言問地区防災まちづくり事業推進委員会」が、このほど「一寺言問地区整備計画」の案をまとめました。この計画案は、関係部局の担当者たちが、私産住民が提案した「一寺言問の防災まちづくり計画」を踏まえて、約四ヶ月かけて作成したものです。今後、私産住民の意見を聞いて固めていくということですが。

一言会では、皆様方のご意見を集めたいと存じます。この瓦版に全文掲載いたしましたので、ご意見のある方は、事務局までお手紙あるいはお電話で声をお寄せ下さい。  
 〈あて先〉 〇〇墨田区横細一の六の一 墨田区開発促進室内  
 一言会事務局「計画案」係  
 TEL(六二六)三二五一(内線)

## 1 旧墨堤之道 沿道に住む人から整備に向けた要望

- ① 歩道は現状通りの幅員にしておく。
- ② 通過車両の規制はない。
- ③ 〇〇元町会側の目かくしとして(現在植栽されている樹木の撤去はしない。の三つを整備の条件とし、要望として、④ガードレールは必要だが、細めの美しいものと取り換える。
- ⑤ 歩道は美観上レンガタイル等にす。
- ⑥ 電柱を細めのものに取り換え粉設する。
- ⑦ 歩道の高さを低くして歩きやすい道にする。
- ⑧ 大のフン禁止の立看板(スマート)ものを立てる。
- ⑨ 神社石垣前の道路の舗装工事について奥直(〇〇墨田区)道路が路面舗装工事のためにかさ上げになり、石垣が沈んでしまった。

## 2 モデル生垣 堤通一丁目に誕生 池田昭二さん談話

古いブロック塀を、緑の生垣に塗りかえた堤通一丁目の池田さん宅に伺い、主人池田昭二さんにお話をうかがいました。「30年くらい前に造ったブロック塀が大変古くなっていましたので、地震がく



れはすぐにも崩れそうだった。新しく仕上げればと話し合いました。昨今の役員さんが生垣にすれば助成金があるのでと教えてくれたのです。うちの場合は、生垣よりもむしろ塀をこわすのに費用がかかった。土台に大谷石を敷いてあったんでね。でも取り壊す費用も助成金でたから助かりましたよ。生垣になって、明るく柔らかな感じになったのが気に入っています。近所の人たちも喜んでくれてますしね。来年の春新芽が出揃った頃が楽しみですよ。」

## 3 目黒から来訪 一言会理事と懇談 路地専などを紹介

11月15日、小雨のぽつぽつ日曜日。防災生活圏モデル事業区域の目黒区林試の森周辺地区から、まちづくり協議会、住民検討会の皆さん十八名が、まちづくり事例見学会として一寺言問地区に来られました。朝十時、提桶に到着、わいわい会代表の徳永さんの案内で、提桶デッキスクウェア(歩道兼用広場)計画の話をお聞きながら、赤茶く色づいた提桶木を巡って、竹下路理も来た料亭「提桶屋」の前から言問小学校、鷹の街、一寺小学校、密林公園、緑化事例の倉蔵さん宅前へと抜け、子供広場から地蔵坂通り、旧墨堤之道、大和場さん前の路地専と見て歩き、ところどころ徳永さんの解説をまじえながら向島百花園までの約一時間ほどの散策を楽しんでいただきました。百花園御成屋敷において、目黒区より防災生活圏の中心に位置する豊林水産省試験場跡地(林試の森)の払い下げによるまちづくり計画の説明を聞き、「一言会」の委員副会長のあいさつで懇談会にはいりました。一言会の副会長でもある徳永さんは、下町職人気質そのもので、二号以降の路地専開発に熱心に取り組み、色々なパターンのミニエマを二十点も作り、その写真パネルを紹介しました。次に一言会の理事の佐原さんから、景観保存と防災についての考え方が説明され、最後に瓦版編集委員の私達(高原、若木)は、専門的な技術も知識もないけれど、できる範囲で参加していきたいと述べました。昼食を共にしながらの一時半はまたたく間に過ぎ、堤通副会長の閉会あいさつの後、目黒の方々は次なる目的地の杉並区へと向かわれました。(若木菊枝)



一言会副会長 増田年茂さん

## 私がまがびんクラブを

向島五丁目で内城酒店を経営する増田年茂さん。須崎町の華やかし頃に少年時代を過ごし、東京大空襲の時、自宅周辺は焼失。迫り来る空から歴史ある長命寺への延焼を身をも、て死守した経験を持つ、須崎生まれの須崎育ちで、こよなくこの地を愛している。

町会役員連任38年。昨年より向島五丁目町会会長に就任。お父さんも生前町会会長を務められ、親子二代の町会長誕生となった。「区」等請による防犯組織としての町会会長では五代目ですが、それ以前より自主組織がありましたから、実際は十二代目で、町会の歴史も70年以上になるのですよ。」と話方も熱く、ゆるゆる。若い頃からカーマニアで、30年以上無事故無違反の人に贈られる交通安全賞も授賞された。現在は読者は趣味で、書棚には墨田区に関する書籍がびっしり。一寺言問地区の文化と歴史の研究に熱心で、まるで生き字引さのよう「方だ。(菊)

